

長野市社会体育館利用者アンケート 報告書 ～速報版～

2022年9月

1. 調査の概要

調査の目的

長野市では長野市公共施設個別施設計画に基づき、市全体で施設の延床面積の20%縮減を通じて維持管理コスト縮減を目指しています。社会体育館（以下、体育館）についても、市が負担する維持管理費を削減する必要があります。

一方で、適切なスポーツ環境を維持していくという視点に立つと、利用者ニーズに合致した施策を展開していくが求められます。その際、すべての利用者ニーズに合致することは難しいため、多くの利用者が納得できる方向性を探っていくことが重要となります。

そこで、以下の2点を目的に本調査を実施しています。

①受益者負担について利用者の考えを把握すること

②体育館の効率的な維持管理のための利用者ニーズを把握すること

調査の方法

対象：R1～3年度に体育館を利用した登録団体4,653団体

※体育館の予約データベースと組み合わせて分析できるよう、利用団体を対象としています

※活動の中心的な立場の方に回答を依頼しています

方法：登録のあるメールアドレスで依頼、WEBフォームで回答

※メールが届かなかった団体には、依頼状を郵送

期間：9/1（木）～9/15（木）

カテゴリー	主な調査項目
1. 団体の属性	登録番号、どのような集まりか、回答者の団体での役割、拠点地区、実施する運動・スポーツ、主な年齢層、利用人数
2. 体育館の利用状況	体育館を選ぶときに重要なこと、利用する体育館、1番利用する体育館の満足度、複数体育館の利用
3. 体育館のあり方についての考え	体育館の維持の方向性、利用額の方向性、体育館の施設数についての考え

依頼数と回答数

配布数	4,022団体
回答数（率）	1,005件（25.0%）
有効回答数（率）	986件（24.5%）

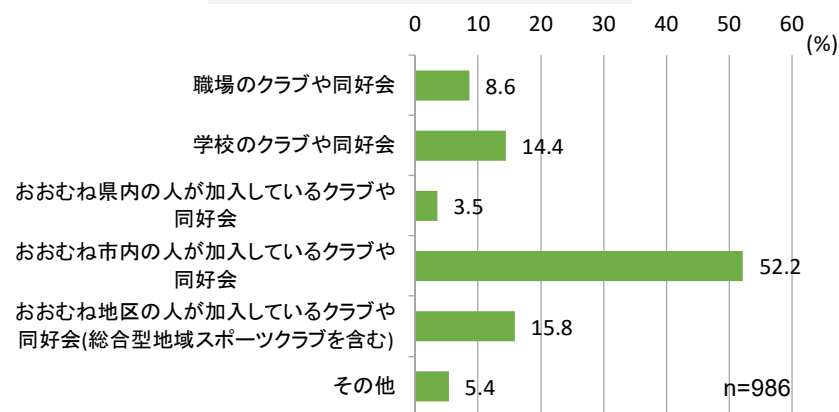
調査結果の見方と注意点

設問によっては無回答があるため、回答数の総数（n）は一致しない場合があります。

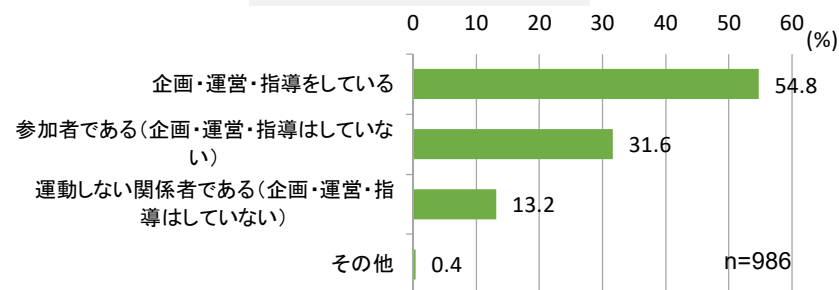
小数点第2位を四捨五入しているため、合計の数値が100%にならない場合があります。

2-1. 団体の属性

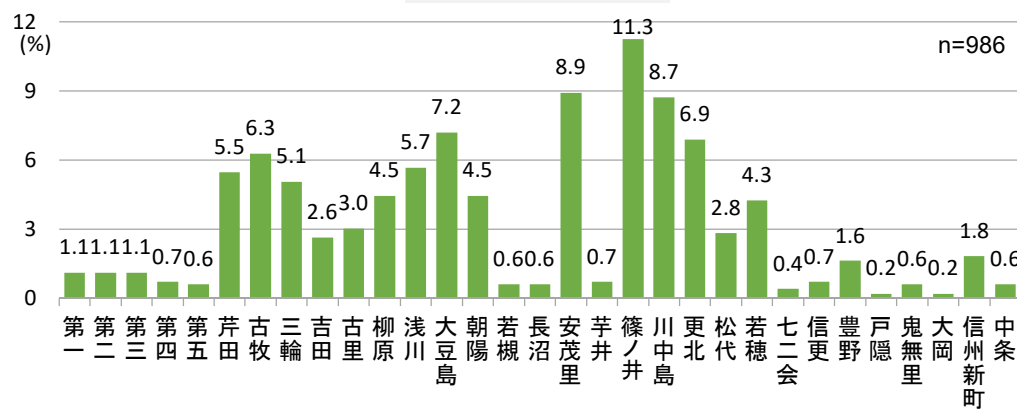
どのような集まりか (Q2)



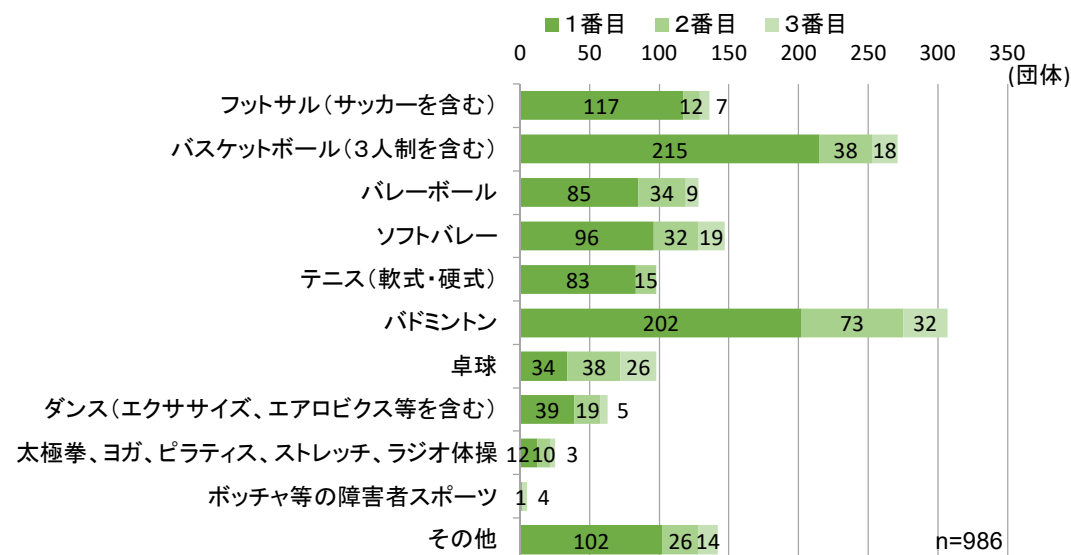
回答者の役割 (Q3)



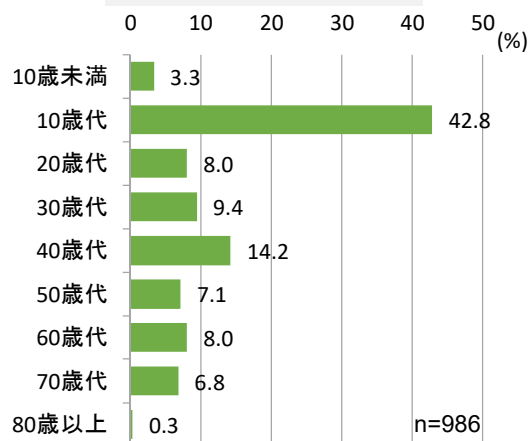
拠点地区 (Q4)



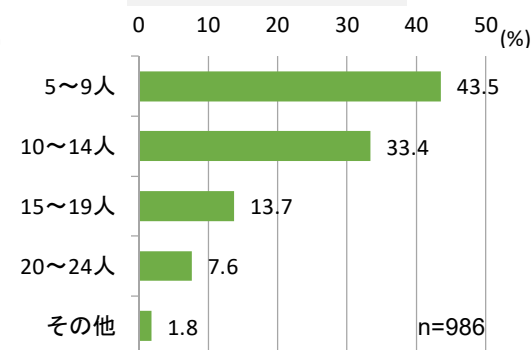
実施する運動・スポーツ (Q5~10)



主な年齢層 (Q11)

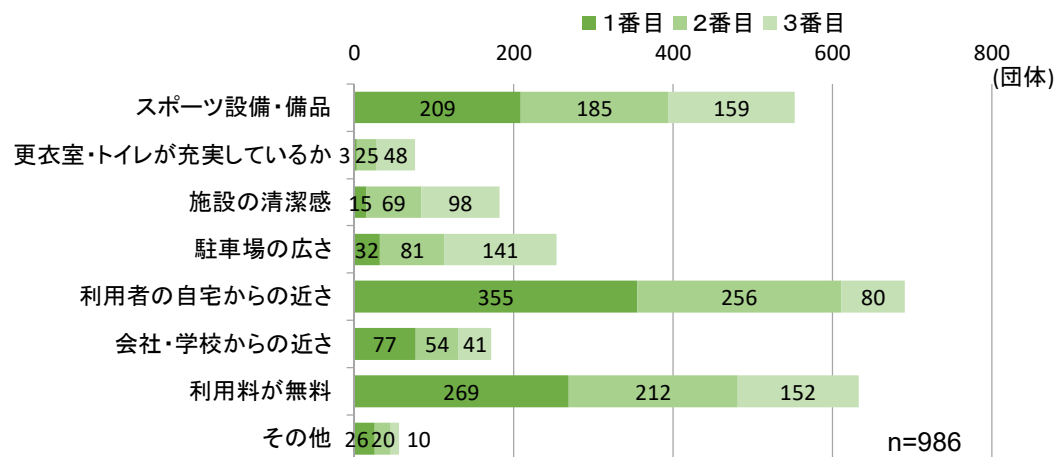


利用人数 (Q12)

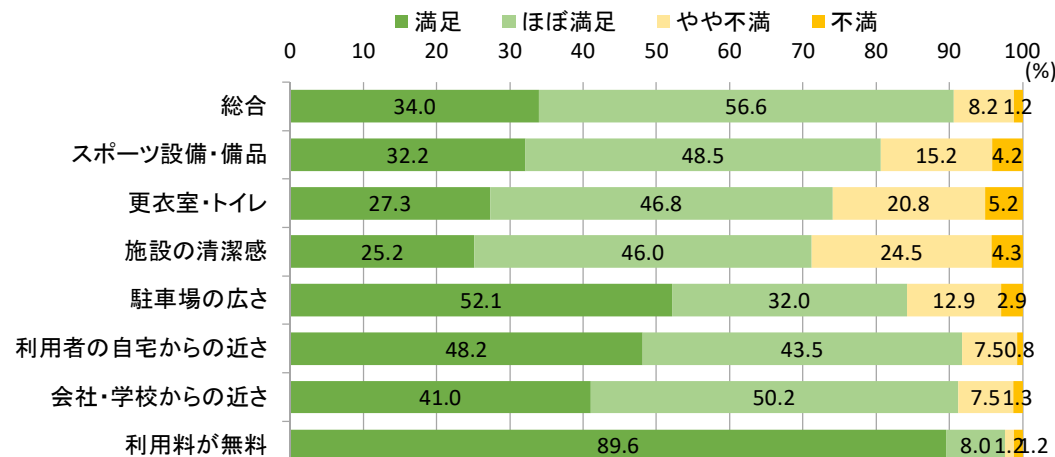


2-2. 体育館の利用状況

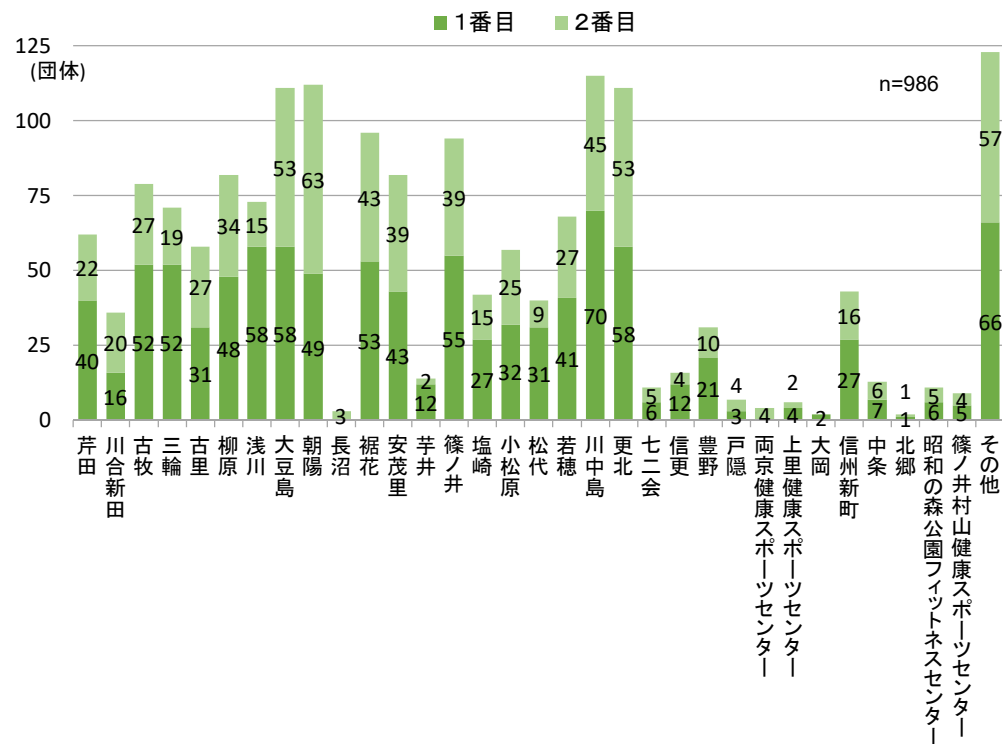
体育館を選ぶときに重要なこと (Q13~18)



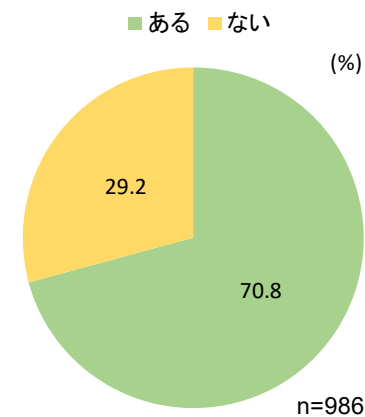
1番利用する体育館の満足度 (Q21~23)



利用する体育館 (Q19~20・25~26)



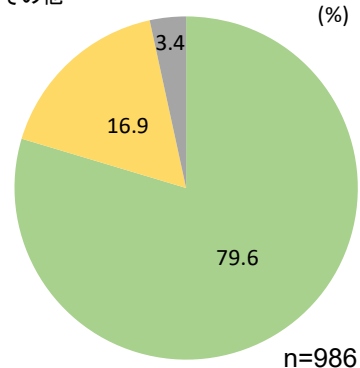
複数体育館の利用 (Q24)



2-3. 体育館のあり方についての考え

体育館の維持の方向性 (Q27)

- 体育館を改修して使い続ける
- 体育館を改修しないで、使えなくなるまで使う
- その他



その他の内容 (Q27)

「減らさない」考え・アイデア

有料化にする

有料体育館を増やし改修してつかう

使用料等の徴収も考えるべきではないか

多少なりとも、使用料を取る。1回2時間500円など

基準日を定め、基準日に登録のある団体から年会費などを集金する。集金したお金を不足分に充てる

使用しないにも関わらずキャンセルしない者、使用人数が少数にも関わらず全面使用している者などがあり、実使用率が低いと思われる。長野市もそれを把握していない。利用率を上げながらゆくゆくは全体育館を有料使用でいいと思う

プロスポーツチームの専用アリーナ活用

民間に売却することも改修・そのまま使用の選択肢に入れてよいのではないかなと思う。金額によっては、購買意欲はある

今後も使用が出来る様になる事を望みますが、全てを維持するのは難しいとも思う。場合によっては民間委託するなど現状とは違う貸し出し方も必要かなと思う

改修できる部分が少ない場合は改修し、使用。回収できる部分が多い場合は新設

改築してホールなどにすると会議室的なものにするとか。車があれば移動できる人はいいいが、子供たちのクラブなどで使う場合は近くにあった方が便利かなと思う

家の近くの体育館はいつも利用者が多く中々抽選予約をしても入れません。ただ修繕の有無だけではなく、平日は部活に利用できるなど立地や、利用効率を考えて立て直しを考えてほしい

点検を手抜きせず行い、使い続ける

「減らしていく」考え・アイデア

必要な改修は行いつつ、使えなくなるまで利用する

利用の見込める体育館優先で修繕していくのがいいと思う

残すべき体育館は改修し、不要な体育館は解体すべき

厳選した体育館のみ改修して使用。他は無くなっても良い

使用頻度の低い体育館から廃止してゆくのは仕方ないと思う

大会が開催できる体育館を新設することを前提に、地域の体育館は使えなくなるまで使う、とする

少子化に伴い子どものスポーツ参加減少が考えられるため、体育館は維持管理コストが財政負担にならないよう改修を行わないほうがよいとおもう。その代外として市内の小中高の体育館を利用できるようにする。ただし、使用の仕方には不安が残るため管理が必要となってくると思う

備品の整備にとどめる(照明・カーテン・ライン等)

備品がきちんと管理されていれば 無理な改修はよいのではないかな

稼働実績や使用頻度による劣化に対してはメンテナンスをしながら維持し、建物自体の老朽化に対してはノーメンテで自然に稼働率が下がるのを待ち、縮減に繋げる

「予算配分を見直す」考え・アイデア

市が負担する維持管理費を削減する必要があるようですが、社会体育施設で削減するという事を前提条件で書いてある事自体がおかしいと思う。市長がスポーツ・健康を推進する方針があるのであれば、もし社会体育への貢献度が低く、赤字になっているのであれば、エムウエーブ、ビッグハット、ホワイトリンクのうち赤字の大きいものを閉鎖・売却して社会体育施設の維持に振り分けてほしい

学校設備としての利用や学校体育館の開放なども含めて考えると良いと思う

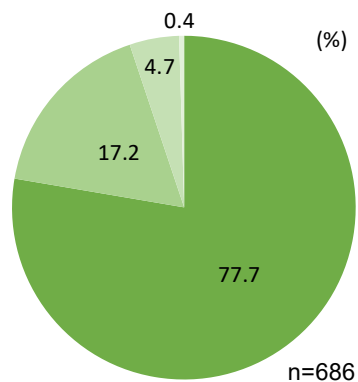
2-3. 体育館のあり方についての考え

利用料を含めて考える体育館の維持の方向性（Q28～30）

	利用料は無料のまま、 使えなくなるまで使う	利用料は有料とするが、 負担は少なくし、負担しき れない分の施設は減らす	利用料は有料とし、 施設は減らさない	その他 (Q28)	計
利用環境が向上するなら、 一定の負担はやむを得ない	5.4%	16.8%	17.6%	0.8%	40.7%
利用環境は現状並みで、 負担は少ない方がよい	26.1%	19.5%	8.8%	3.3%	57.7%
その他 (Q29～30)	0.3%	0.5%	0.1%	0.7%	1.6%
計	31.7%	36.8%	26.6%	4.9%	100.0%

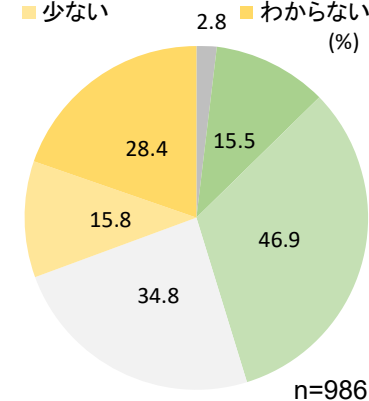
利用額の方向性（Q31）

■ ～1,000円 ■ 1,001円～1,500円
■ 1,501円～2,000円 ■ 2,001円～



体育館の施設数についての考え（Q32）

■ 多い ■ やや多い
■ ちょうど良い ■ やや少ない
■ 少ない ■ わからない



2-3. 体育館のあり方についての考え

その他の内容（Q28）

「利用料は無料のまま、使えなくなるまで使う」に近い
利用料は無料のまま、使えなくなるまで使う（使えなくなる前に利用者数を把握し必要数は改修で確保）高齢化、少子化により、使用人数は減少するはずである

「利用料は有料とするが、負担は少なくし、負担しきれない分の施設は減らす」に近い
使用が少なくほとんど使われていない施設を減らす
使用頻度の少ない体育館は改修せず使えなくなったらやめる
利用料は最低限にして、利用頻度の多い体育館を維持する
使用頻度の少ない施設をまず減らしその後負担少なく使用料を取っていく
3択でなく、使用頻度の低い施設は、使えなくなるまで使い、順次廃止させていく
老朽化してる無料の体育館を有料化は無理があるので、古くて使われない体育館は閉めて、有料の新しい体育館を作る
施設数を精査し、老朽化した施設は改修する。改修した施設は全て有料化とする

1・使用頻度を調べる⇒ほとんど利用していない体育館を見直す（使用不可の対象）2・登録カードを作成料を回収。それで運営できるかどうか考えて、施設利用料を都度必要か考えるし
山間地にある使用頻度の低い体育館（信更、芋井など）また予約システム以外で手続きをする様な認知度が低い体育館（北郷体育館）の施設は減らしていく
施設の利用度を調べて、多い所は負担の少ない範囲での有料にして、山の方の利用度が少ない体育館は無料のままにして、利用度をあげる
これから新しく作るスポーツ施設に関しては利用料を取る。既存のスポーツ施設に関しては無料のまま改修工事を続けるか、利用する人が少ない施設に関しては減少も致し方ない。

使えなくなったら減らすことについては、使用頻度の高い施設は改修してでも維持すべきである。減らすのは、使用頻度の少ない（費用対効果が悪い）ものにすべきである。維持管理費がどの位確保できるかの問題であり、関係部署には頑張って頂きたい。
中学部活動クラブチーム化で利用が増える。学生には無料で貸してほしい

利用料をとるなら地区の団体は少し安め地区外は少し高め市外は高めにしてほしい。現在地区外からの利用者が多く、なかなか体育館が取れない。地区の団体が使いやすいようにしてもらえたら多少の負担は致し方ない。小中学生の社会体育団体は少ない会費でやりくりしながら練習してるので、そこも考慮してほしい
個人利用、スクール等収益が伴う団体やサークル（社会人を主とする）団体は利用費を払う、小学校、中学校の部活やクラブ活動、自治体の活動は無料とする

毎月の利用〇枠までは無料、〇枠以上は有料、前日キャンセル料はかからないが、当日キャンセル料は使用料と同じだけ支払う
地区の体育館と考え、遠方の方に負担してもらう

「予算配分を見直す」
無料で数を減らさない
無料の利用を維持する
施設は、無料で維持をしてほしい
有料になるのも体育館が減るのも困る
利用料は無料のままとし、施設数は減らさない
市の財政を改善してスポーツ施設の予算を増やす
利用料は無料のまま計画的に修繕を
無料のまま改修もしていいほしい
利用料は無料のまま改修を続ける（施設を減らさない）
無料のまま修繕しながら現状の数を維持する
利用料は無料 市民の健康増進のため施設も最大限確保
公共の施設であるため無料の利用で改修費も市税で行うべき
利用料を無料のまま、改修しながら施設数を維持してほしい
生涯スポーツの観点から無料で使用できる体育館であってほしい

「別財源を探す」
スポンサーになっていただいた企業名を体育館名にする
スポンサー企業を募集し、ネーミングライツ制度などを取り入れて、市民が無料で使用できる運動施設として施設は減らさない
クラウドファンディング等の出資による改修／スポーツの推進による医療費や介護費の減を原資にする
施設カードの維持費に年間100円でも取り、修繕費用に充てる
地区や区費などから管理費を出し、地域外の団体は有料とする
その建物がある地区でちょっと維持費を補助してもらうとかは無理なのでしょうか

「管理コストを削減する」
民間の管理してくれるところに委託する
全ての施設を減らさないが、場所によっては民間委託し、施設使用料を取る事も維持には必要だと思う
多少、有料になっても、第三者に管理を任せる。市で運営するよりも、効率的にやってくれるところがあると良いが
掃除や簡単なメンテナンスをシルバー人材等に依頼し、コストを削減する。怪我や事故などが無いレベルで改修を行い、建て替え等は控える
選択肢にはないが、維持管理費の削減や、他のオリンピック関連でつづいた施設負担の削減などはないのか

その他の内容（Q29～30）

「利用環境が向上するなら、一定の負担はやむを得ない」に近い
成人の団体は有料に、学生、子どもの団体は無料に
有料の良い設備と無料で若干劣る設備のランクをつけてはどうか
使用頻度の多い時間帯、体育館は高めの金額設定、山間部、利用頻度の少ない時間帯など利用頻度の少ない体育館は安く価格設定を行う
なかなか予約取れないのに使用料だけかかるのは不満。もっと公平に使用できるのなら有料でもやむを得ないと思う

「利用環境は現状並みで、負担は少ない方がよい」に近い
環境向上に同意したいが、事前に使用料を収める方法では活動継続は厳しい
お金がある人はスポーツ出来る方、ない人は、やってはいけないと言われてるような気になる
市民の健康増進を目的としたスポーツ振興を施策とし、その利用を広く呼び掛けるならば、利用環境を充実させつつも、低廉な受益者負担の設定は必要である
社会体育団体で用意のできないような備品（バレーやバドミントンのボール、バスケットゴール等）は無料にしてほしい。 ネットや得点板など買えて持ち運びできるものは各自用意できるので、有料でも構わない

「管理コストを削減する」考え・アイデア
使用後は、きれいに清掃する事を徹底させ、使用料は無料が良い。
今の施設を丁寧に維持しながら、無料で利用したい。利用環境を現状並みでは、老朽化に耐えないか
利用料はできるだけ安い方が良く、利用者にトイレ掃除などを割り当てたらどうか。利用者団体は多いと思うので年に1回程度で済むのでは
利用料はできるだけ安い方が良く、利用者でトイレ掃除などを当番制で行えば清潔は保てると思う。利用団体は多いと思うので当番は年に1回程度で済むのでは
設備、備品はやるスポーツによって違うのでスポーツの種類によって管理、維持を任せ、サポートとして市、町の担当者と相談して、金銭面も相談していったらよいと思う
少年サッカークラブでコーチはボランティアなので、保護者負担が多くならない方がよい。愛護会などの掃除をボランティアで行う団体の存在も必要では

3. 調査結果の分析

(1) 社会体育館はすべて残すべきか

体育館の維持の方向性（Q27）をみると、

- 「体育館を改修して使い続ける」79.6%、「体育館を改修しないで、使えなくなるまで使う」16.9%
→残したいという意見が大多数であるが、減らすこともやむなしとする意見もある

利用料を含めて考える体育館の維持の方向性（Q28～30）をみると、

	利用料は無料のまま、 使えなくなるまで使う	利用料は有料とするが、 負担は少なくし、負担しきれ ない分の施設は減らす	利用料は有料とし、 施設は減らさない	その他 (Q28)	計
利用環境が向上するなら、 一定の負担はやむを得ない	5.4%	16.8%	17.6%	0.8%	40.7%
利用環境は現状並みで、 負担は少ない方がよい	26.1%	19.5%	8.8%	3.3%	57.7%
その他 (Q29～30)	0.3%	0.5%	0.1%	0.7%	1.6%
計	31.7%	36.8%	26.6%	4.9%	100.0%

- 「利用料は無料のまま、使えなくなるまで使う」は31.7%まで上昇する一方で「利用料は有料とするが、負担は少なくし、負担しきれない分の施設は減らす」は36.8%と最も多くなっている
→利用団体は、負担がなければ残したいが、利用料を含めて考えると、利用が少ない施設は減らす等の合理的な判断を求められていると考えられる

(2) 利用料は受け入れられるか

利用料を含めて考える体育館の維持の方向性（Q28～30）をみると、

- 利用料の導入を容認する意見は68.1%
→利用料の導入は、過半数以上の利用団体から容認されていると考えられる
一方、ハードの維持・ソフトの充実で考えが分散しており、ニーズに適切に対応するためには、体育館ごとにニーズを把握する等のより詳細な分析が求められる